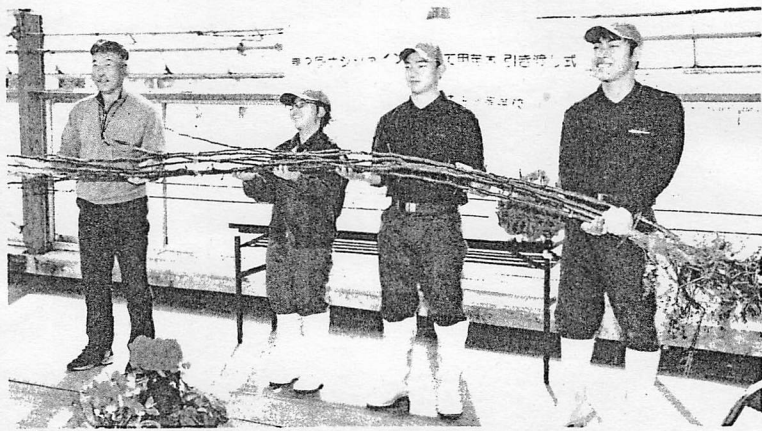


本校、生物生産科の取組が読売新聞に掲載されましたので紹介します。

育てた梨の苗木 農家へ 薩摩中央高生、75本引き渡す



生徒たちから苗木を受け取る市山さん(左)

さつま町の県立薩摩中央高の生徒たちが9日、自分たちで育てた梨の苗木を地元農家に引き渡した。苗木は約1年間で高さ3、4呎ほどに成長した75本。同町中津川の梨農家、市山貞篤さん(60)が買い取

り、接ぎ木による栽培法「樹体ジョイント仕立て」に使用される。樹体ジョイント仕立ては、枝をしならせて隣接する木に接ぎ木し、地面と平行な状態にして栽培する。剪定の簡素化など作業の効

率化につながる。川俣昭寿校長は「生徒たちが研究しながら育て、引き渡せる苗ができてほっとしている。学校、地域、農家が連携し、発展していくことを期待している」とあいさつ。生物生産科3年の大窪諒さん(18)は「継続して苗木をお届けできるように後輩に引き継いでいきたい」と抱負を語った。苗木を受け取った市山さんは「大切に育てて梨の振興に寄与しながら、若い方々に栽培の魅力を感じてもらえるように努めたい」と話していた。